

平成 28 年度（2016 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 1

公募により選定した指定管理者「NPO 法人市民ネットすいた」により、以下の事業を実施  
平成 28 年度（2016 年度）交流スペースを含む施設利用者は 63,197 人

1 施設の使用許可業務

会議室、事務ブース、メールボックス、ロッカー、物品棚の使用許可及び使用料の徴収

2 相談事業

- ① 一般相談：市民公益活動団体の運営に関する相談、市民公益活動への参加や市民公益活動団体による支援を希望する市民からの相談など  
(随時、相談 392 件)
- ② 専門相談：税理士による会計・税務相談（開催 6 回、参加 6 名）
- ③ NPO 法人相談：窓口で随時対応したほか、NPO 法人入門講座終了後に個別相談に対応。

3 情報提供・広報支援事業

- ① ウェブサイト：当施設の開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開など。Facebook も活用。
- ② ニュースレター：事業報告及び講座・イベント等の案内、特集（市民公益活動促進補助金報告会等）を掲載、4 回発行（2,500 部）  
配付先：市内で活動する市民公益活動団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、他市の市民公益活動センターなど
- ③ ちらし同封サービス：ニュースレターを配付する際、市民公益活動団体のちらしも同封するサービス。団体・事業の紹介をし、市内に広めた。  
配付先：市民公益活動登録団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の中間支援組織など
- ④ 市民公益活動団体ガイドブックの発行：冊子形式とウェブサイトの 2 種類発行（冊子は隔年、28 年度 1,000 部作成）
- ⑤ メールマガジン：センターの事業案内、助成金情報、市民公益活動団体等のイベント情報やボランティア情報等、2 週間に 1 回発行。  
送付対象：市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

## 平成 28 年度（2016 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 2

## 4 講座・研修事業

講座名	実施回数・内容		参加者数
市民公益活動入門講座	12 回	少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説。個別相談にも対応。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけをつくった。	29 名
地域活動デビュー講座	1 回	自分にできる「シャカイコウケン」をテーマに、eN カレッジすいたのイントロ講座として開催。	23 名
NPO 法人入門講座	4 回	NPO 法人制度について知ってもらい、市民公益活動団体の創設や法人化に役立ててもらおう講座。	25 名
会計・税務専門講座	3 回	専門家を講師に、記帳、決算処理、NPO 法人会計基準、税務等を解説。	35 名
団体情報発信講座	3 回	オリジナルの広報講座を実施するほか、プロのデザイナーを講師に招いた講座などを実施。	46 名
財源確保講座	3 回	助成金等の「申請書の書き方講座」のほか、ファンドレイジングをテーマにした「資金と支援者を増やすコツとポイント」講座を開催。また吹田市市民公益活動の支援補助金説明会も実施。	37 名
NPO・ボランティアグループ運営講座	3 回	コミュニケーションに特化した講座（エンパワーメント、アサーティブ）のほか、ホワイトボードの活用術を学ぶことで会議を円滑に進める講座を実施。	64 名
地域コミュニティ運営講座	4 回	市民自治について考える講演会、居場所づくりに関する講座を開催。	113 名

## 平成 28 年度（2016 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 3

## 5 交流・連携促進事業

交流・連携事業名	実施回数・内容及び目的		参加者数
かえっこバザール おとなスタッフ募集説明会	1 回	使わなくなったおもちゃを捨てずに再利用したことで、環境負荷を低減したと同時に世代間交流を通じて、地域の活性化を図った。イベント当日に向けておとなスタッフ募集説明会や、5 周年企画として行うパレードに使用するみこしづくりのワークショップ等を開催し、新しいスタッフを巻き込むことができた。企画運営は、ボランティア、市民公益活動団体などが参画する実行委員会方式で、行政、公共施設、教育機関、商業施設などと連携して取り組んだ。その他、市民公益活動団体からの持ち込み企画で、社会課題に触れる展示・体験も同時開催した。	9 名
かえっこバザール おもちゃおみこしをつくろう	1 回		27 名
かえっこバザール 本番	1 回		約 560 名
団体交流会	2 回	協働のきっかけづくりの取組みとして、市民公益活動団体だけでなく、事業者、行政などを交えた交流会を開催した。	40 名
市民協働マッチング	随時	市民協働のニーズを受けて、分野やセクターを越えた連携・マッチングの支援を行った。TSUTAYA BOOK STORE ららぽーとと EXPO CITY と市民公益活動団体とのコラボ事業(H28. 3～)、南山田デイサービスセンターと市民公益活動団体とのコラボ事業(H28. 4～)を行った。	—
現場で学ぶ団体運営学習会	随時	相談等事業で、相談者に活動事例を知ってもらうことが有効と思われるケースがあれば、市内外を問わず適切な団体に見学の受け入れの交渉をして、市民や団体が先駆者の経験と活動の現場を直接見聞きできる機会を作った。	17 名
テーマカフェ	13 回	特定のテーマで自由に語り合える「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる交流の場を提供。テーマ：「老活」「ワークライフバランス」「夏休み議会見学会」「大学生の政治参加のカタチ」「メディアの見方、つき合い方」「コミュニティパーク」等	156 名
「このゆびとまれ」の会	随時	市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人や団体の立ち上げ支援や事業サポートを行う取組み。今年度は、テーマカフェから生まれた「保活カフェ」の立ち上げ支援及び若い世代の参加を望む環境団体と子育て世代が中心となって活動している団体とのコラボ事業を行った。	—
おすそわけマーケット	常設	ひと昔前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣や近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。おすそわけから始まる新しい地域コミュニケーションとして、利用者の層を広げた。	—

その他、東日本大震災により吹田市に避難された方の相談、法律相談などを行っている。

## 6 調査・研究・政策提言など市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

NPO 法人の事業運営に関する実態調査（事業で自立していく「事業型 NPO 法人」に発展成長していくためにどんな課題があるのかを把握することを目的に実施）

## 平成 28 年度（2016 年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 4

## 7 施設運営について

- ① 利用者懇談会：施設利用者にセンターの運営や利用、サービスに関しての意見を出してもらい運営に反映。4 回開催。
- ② ボランティア制度：登録ボランティア（ラコルタサポーター）がセンターと協力しながら事業運営企画に参加。使用済み切手やはがきの収集ボランティアチーム「あつめーる」の活動を行った。また、単発短時間で参加することができる「ぷちボラ」のプログラムの見直しを行い、気軽に参加できるプログラムを加えたり、web での広報方法を工夫した結果参加者が増加した。

## 8 自主事業

## ① コミュニティカレッジ 「eN カレッジすいた」

地域人材育成を目的に第 3 期「eN カレッジすいた」を実施。ラコルタ以外で実施している人材育成の講座を連携講座と位置づけ、これから活動をはじめたい市民への有益な情報提供も行った。ラコルタサポーターへ登録された受講生が多数あった。

## ② 公民館企画運営委員研修

「住民が参加しやすい企画づくりとは」の内容で研修を実施。公民館の目的と企画運営委員の役割を確認してもらうのが目的。課題の共有によって解決のヒントを得るきっかけになり、他市の状況や NPO などとの協働事例などを知ることができ、また、公民館運営などについて他市との違いを知ることによって地域住民による企画運営により培われる市民力を認識し、企画運営委員自身が地域の資源であることを自覚してもらうことができた。

## ③ 公民館フォーラム「公民館の今、未来～未来の公民館をデザインしよう～」

地域コミュニティ活動の支援に向けて、地域の人材育成の拠点となる公民館の機能（集う・学ぶ・つなぐ）を活性化する機会の場合。企画運営委員が活性化に向けてどのような活動をしているのかを交流により知ると同時に、未来の公民館に期待される役割として、持続可能な人づくり・地域づくりの実現を担う公民館の今後の方向性について考えるワークショップを行った。